

## あ と が き

本号の巻頭言で、東北大の相山さんが「核データの専門誌」の必要性とその実現への道を述べておられ、その中で本誌の活用を提案されておられます。本誌の編集に当る者として、強い感銘をもって読まさせていただきました。と申しますのも、本誌では最近、学術的色彩の強い記事や論文的なものを多く扱うようになり、速報性を要する「ニュース」的なものをどう調和させていくかと言うことで日頃、頭を悩まし議論を重ねてきたからです。本誌が「JND Cニュース」から「核データニュース」へと改題したとき(1976年8月)にも、核データの専門誌へと発展することを強く希望された方もありました。事務局内での議論でも、「論文」的なものと「ニュース」的なものを区別して2本立てで発行すると言った意見もありましたが、実現には多くの問題がありお話だけに終わっていました。最近、核データの学術誌の必要性についての意見がしばしば聞かれるようになった一方、既存の学術誌をもっと開拓するのが先決であるとの意見も多いようです。核データの学術誌の問題と「核データニュース」の今後のあり方とを含めて、具体的な検討をする必要があると考えています。近く、シグマ研究委員会の運営委において討議していただきたいものと思いますが、皆様の御意見を事務局までお知らせ下さるようお願いいたします。

( 浅見哲夫 記 )